YURIKO PERFORMING ARTS
yuriko-art.jp

【開催報告】

コロラトゥーラ・ソプラノ小柳百合子コンサート「ザ・グローリアス・ファセッツ・オブ・ハート」プレミエ公演

東京とウィーンを拠点とする日本人女性音楽家三名の演奏により、伝統ある楽友協会ブラームス・ホールを舞台に、表記公演を敢行いたしました。陽射し揺らめく美しい初夏、クラシック音楽シーズンが幕を閉じる寸前の華やかな祝祭モードの６月に、百合子パフォーミング・アーツとして本公演を主催できましたこと、喜びと共に報告します。アジア／欧州／北米を活動拠点とするクリエイターとの遠隔コミュニケーションにより、グローバルに製作されたプログラムにふさわしく、当日も様々なルーツのお客様が音楽を鑑賞くださいました。

1. 日時：2022 年 6 月 5 日（日）12:00-13:00
2. 会場：楽友協会ブラームス・ホール（オーストリア・ウィーン）
 ［URL： https://www.musikverein.at/en/brahms-saal ］
3. 主　催：百合子パフォーミング・アーツ　［URL：https://www.yuriko-art.jp/ ］
4. 演奏家：小柳　百合子（ソプラノ）／鈴木　真琴（ピアノ）／上野　萌華（ヴァイオリン）
5. 演　目：楽友協会イベント頁のプログラム（ドイツ語）を参照のこと
［URL：Konzert, Yuriko Koyanagi (musikverein.at) ］邦訳プログラムノートは添付します

6. 概　要：In the international premier of "The Glorious Facets of Heart," Japanese soprano Yuriko Koyanagi performs select works celebrating the fragility and resilience of love in all its forms. Through classic stories of defiant joy, romantic longing, and fellowship that transcends all borders, the program takes audience members on a voyage through the depths and heights of the human condition. Classically trained in music and ballet, Koyanagi offers original interpretations of opera and choreography inspired by the global traditions of Japan, India, and Europe. In her European debut, Koyanagi presents a delightful program rich in metaphor and surprise.

7. 制　作（カッコ内は担当者の活動拠点国名・都市名）：
   - 制作期間：2021 年 11 月より 6 カ月半
   - ディレクター／シナリオ構成／プログラム演出／舞台監督：小柳　百合子（東京）
   - グラフィックデザイナー：インディア・アレッサンドラ（カナダ・トロント）
   - サマリーコピーライター：ステラ・オレンジ（米国マンハッタン）
   - プログラム協力：鈴木　真琴／上野　萌華（ウィーン）
   - 通奏低音・カデンツァ編曲：小柳　百合子／松本　陽（東京）／鈴木　真琴（ウィーン）

8. 製　作（カッコ内は担当者の活動拠点国名・都市名）：
   - プロデューサー／会場手配：小柳　百合子（東京）
   - 事務局調整員：宮島　美貴（東京）
   - 編曲マネジメント協力：北條　聖子（東京）
   - アーティスト・マネジメント協力：
     クリスティン・オーカーロンド（ウィーン）／カーデ・ロバート（オーストリア・ザルツブルク）
   - リハーサルスタジオ手配：鈴木　真琴（ウィーン）
   - ステージマネージャー：マニュエル（ウィーン）
   - デザイン・マネジメント協力：
     バーブ・マッキントッシュ（トロント）／ニコラ・カントリー・リヴァーター（英国ベルファースト）
   - 舞台小道具マネジメント協力：
     大久保　恵／宮川　美穂／櫻本　恵子（東京）／ヘイモント・デヴァラ（インド・プシュカル）
   - 撮影協力：本間　明見／梅木　淳子／浮花（東京）
   - ポスター広報協力：マルティーナ・モンタナーリ（ウィーン）
   - チケットマネジメント：ピーター・ネドマ（ウィーン）

9. 取材希望など、お問合せ窓口：
   百合子パフォーミング・アーツ事務局 調整員　宮島　［メール　rosenkavalier@yuriko-art.jp］
10. 主催者によるイベント特設ページ（英語／日本語）：
   'The Glorious Facets of Heart' Concert | yuriko | art (yuriko-art.jp)

【添付資料：邦訳プログラムノート】

① ヘンデル作曲　歌劇「ロターリオ」より：アデライデのアリア「小舟は海に戯れる」（イタリア語歌唱）
② バッハ作曲　フランス組曲 第 3 番 BWV 814 ロ短調より：アルマンド／ジーグ（ピアノ・ソロ）
③ ヘンデル作曲　歌劇「パルテノペ」より：アルミンド王子のアリア「アルミンド、勇気をもって挑みなさい／私は最愛の人に伝えたい」（イタリア語歌唱）
④ コルンゴルト作曲　歌劇「死の都」よりマリエッタのアリア「私に残された幸せは」（ヴァイオリン編曲）
⑤ ヘンデル作曲　歌劇「パルテノペ」より：パルテノペ女王のアリア「お戯れを」（イタリア語歌唱）
⑥ ヴィターリ作曲　シャコンヌト短調（ヴァイオリン／サプライズ舞踏）
⑦ ロッシーニ作曲　三つの聖歌「信仰・希望・愛」より：「愛」（イタリア語歌唱）

ロッシーニ作曲「愛」において、さざ波のように幾度となく歌われる「心の美徳」とは何であろうか。ハートのヴィルトゥーすなわち「愛」を表現するために、ロッシーニは三つの聖歌として「信仰」と「希望」を前段に配置し、愛にいたる道筋を示した。本公演は、ウィーンの礼拝時刻にあわせ、日曜ランチコンサートとして開催した。

一般的に「信仰」と訳されてきたフェーデとは、英語では Faith である。小柳百合子が提示する新時代の Faith とは？どのような荒波にもまれて雷にうたれても、しなやかに舵を取りなおすことができる、自分自身の能力への信頼である。さあ、アデライデと共に、ポセイドンの支配する地中海へ冒険に出よう。ひらひらと舞うゴンドラで、鼻歌まじりに、ヴェネチアの港から出航だ！波乱万丈なコロラトゥーラ・ソプラノの極みである。勝利に酔いしれたあと、再び闇が訪れて、壊れそうな感情が舞い上がる。ロードス島の王子アルミンドの切望を表現する前奏曲として、バッハ作曲による気品かぐわしい舞曲を用意した。自らを鼓舞し、パルテノペ女王に愛を告げて、心に明かりを灯そう。それはすなわち「希望」である。

前半三曲のバロック音楽の部を終えて、場面は穏やかに、運河の流れる都ブルージュへ。繊細な王子から生まれいずる雫のような涙が滴り落ちてピアノの音となり、ヴァイオリンがマリエッタのアリアを唄う。ユダヤをルーツに持ちウィーンで活躍したコルンゴルトが作曲した歌劇より採用した。水の流れが、優しく、想いを運ぶ。

舞台は、ティレニア海に挑むナポリの建国神話時代へ。セイレーンとしての明るい軽やかさが表現されたワルツ曲により、オルゴール風味なファンタジーの大団円へ。アルミンド王子の求愛を受け入れたパルテノペ女王は歌う－痛みと喜びの二つの側面がひとつに束ねられて、心となるのだと。それはまるでダイヤモンドのファセットのように、いくつものカットが側面となった宝石のように思え、本公演を「ファセッツ・オブ・ハート」と表現した。さまざまな感情を通り抜けて、燦然と心が輝く。グローリアス！灰のなかから優雅に誕生しなおす、不死鳥のようである。舞曲シャコンヌにおいて、誉れ高い心の高揚が、ヴァイオリンにより磨き上げられていく。ヴァイオリンと対話しながら、舞踏家でもある小柳百合子が金色の羽をまとい「鳳凰舞」に昇華した。

最後にロッシーニ作曲「愛」を唄う前に、壇上で MC と共に、献花する予定であった。だが、ゲネプロを終えて演奏家が何気なく壇上で発したひと言「私たちが、壇上のお花」に納得し、花は捧げず、言葉と音楽を捧げて祭典をしめくくった。日本のことわざ「三本の矢」は、Three Faiths と英訳される。壇上に三人のお花が咲いた。何があっても、折れることはない。冒険心、希望、仲間への慈愛を胸に、人生を謳歌しよう！